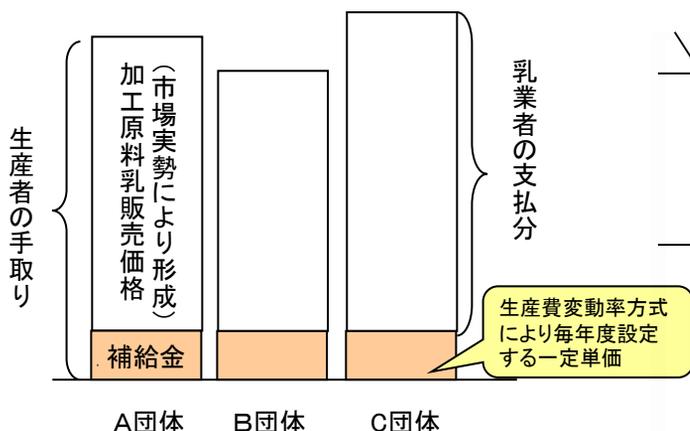


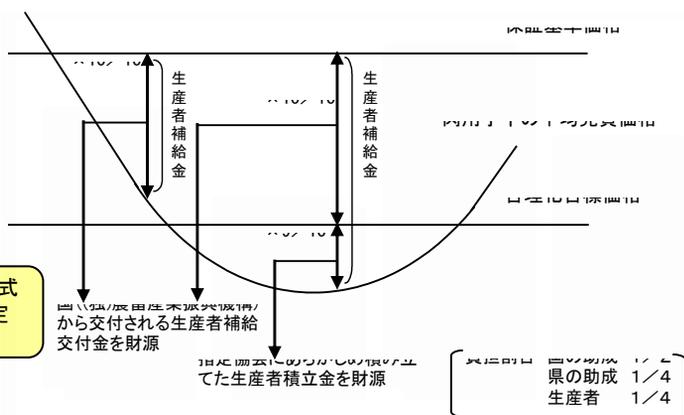
4 経営安定のための施策の在り方

- 生乳や肉用子牛の再生産の確保、肉用牛肥育経営等の安定を図る観点から、今後とも経営安定対策の適切な運営を図ることが必要です。
- 各畜種における経営安定対策については、これまでの施策の目的と効果を踏まえ、対象経営を明確化し、経営の安定性を向上させることを基本に見直しの検討を行い、本年秋頃に方向性を明らかにし、平成19年度から見直し後の対策へ移行します。
- また、WTO農業交渉における新たな国内助成に対する規律の動向等を踏まえ、必要な対応を検討します。

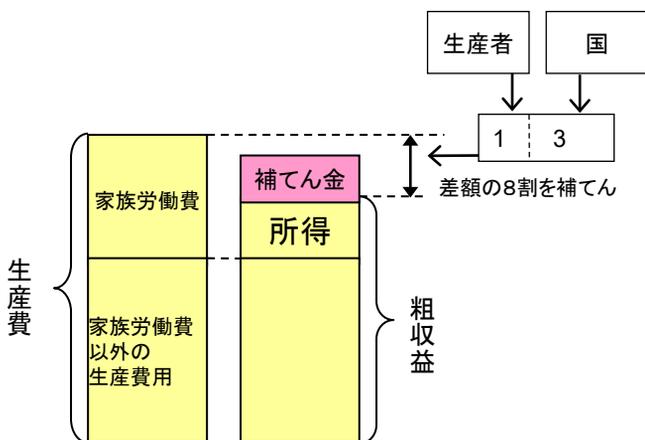
○ 加工原料乳生産者補給金制度



○ 肉用子牛生産者補給金制度

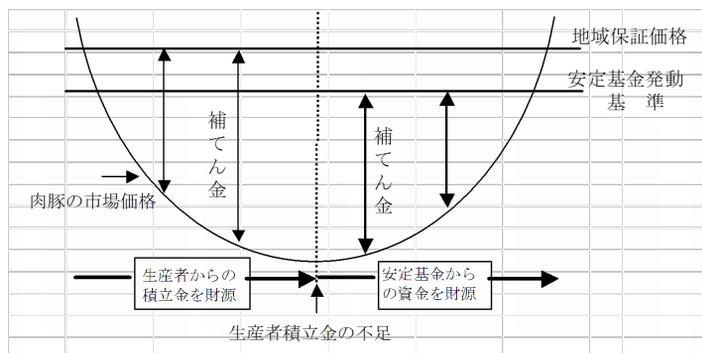


○ 肉用牛肥育経営安定対策事業



(参考)

○ 地域肉豚生産安定基金造成事業

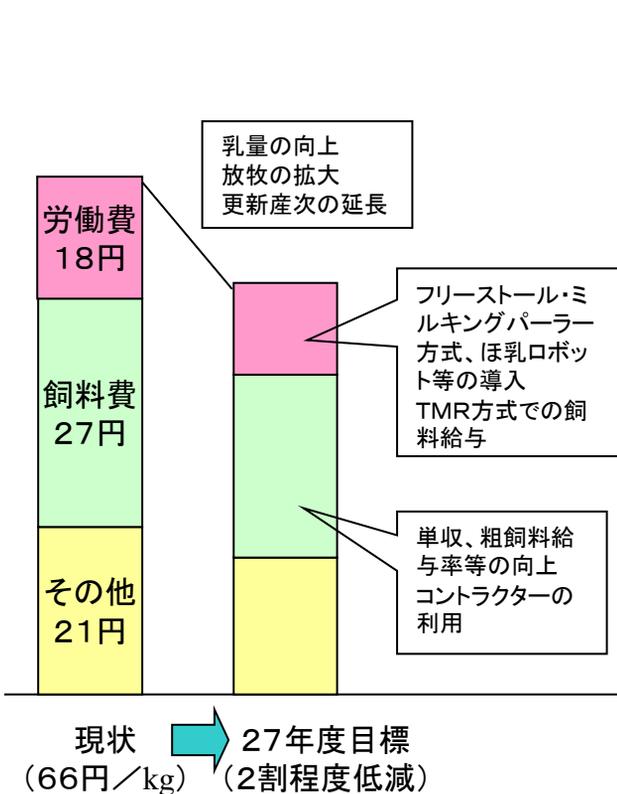


5 畜産物のコスト低減に努めよう！

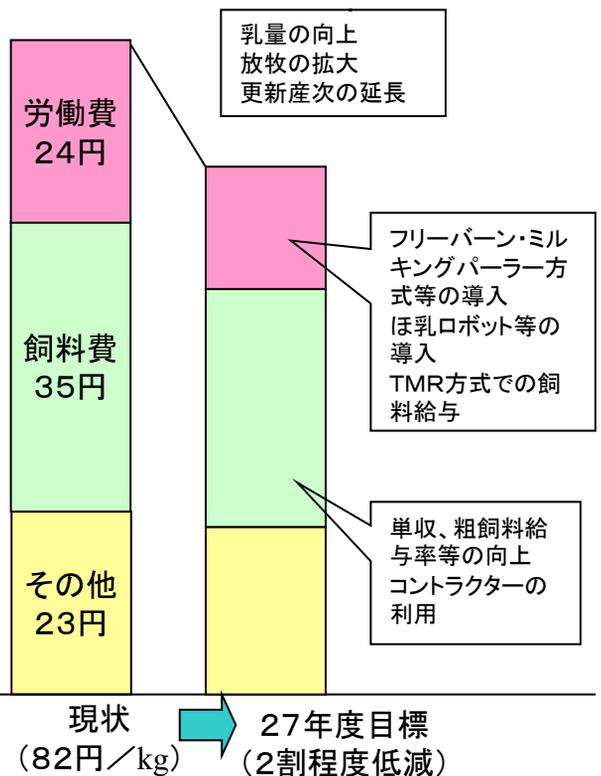
- 畜種や飼養形態、地域条件などによって、経営費用の構成もさまざまです。
- 個体能力の向上を図りつつ、自給飼料生産の拡大、コントラクター・ヘルパーの活用、新しい技術の導入など、経営スタイルに合ったコスト低減を進めていく必要があります。

以下の様な取組を通じて、生産コストを現状の8割程度にまで削減

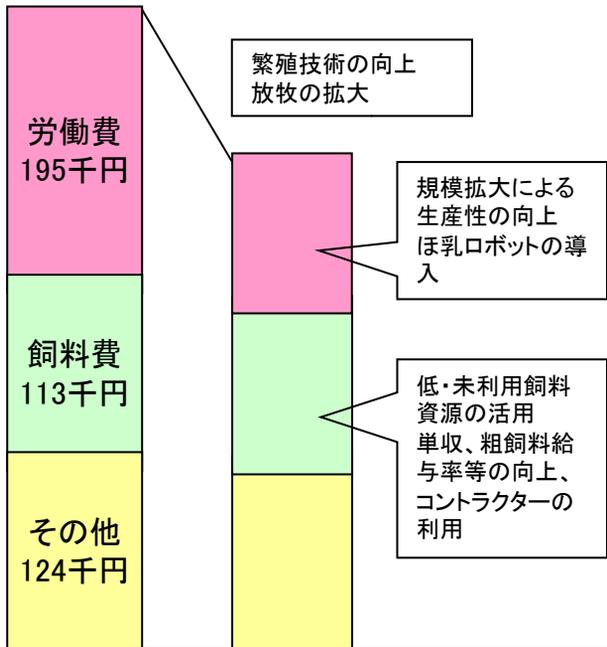
酪農経営・北海道



酪農経営・都府県

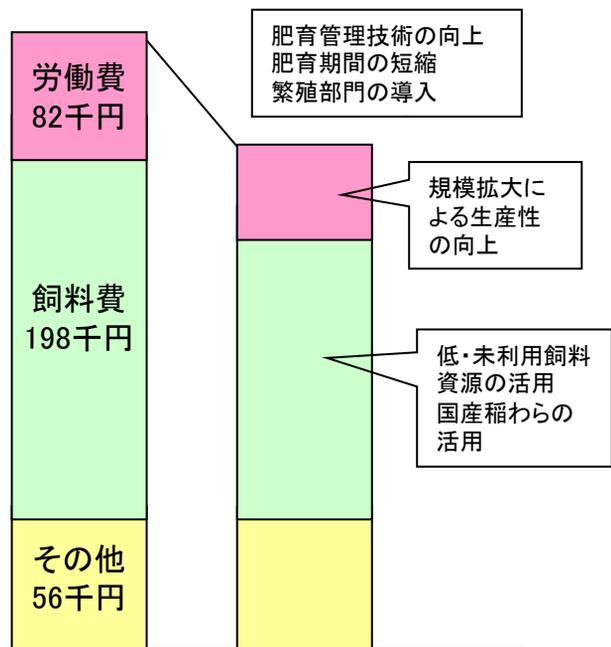


肉専用種繁殖経営



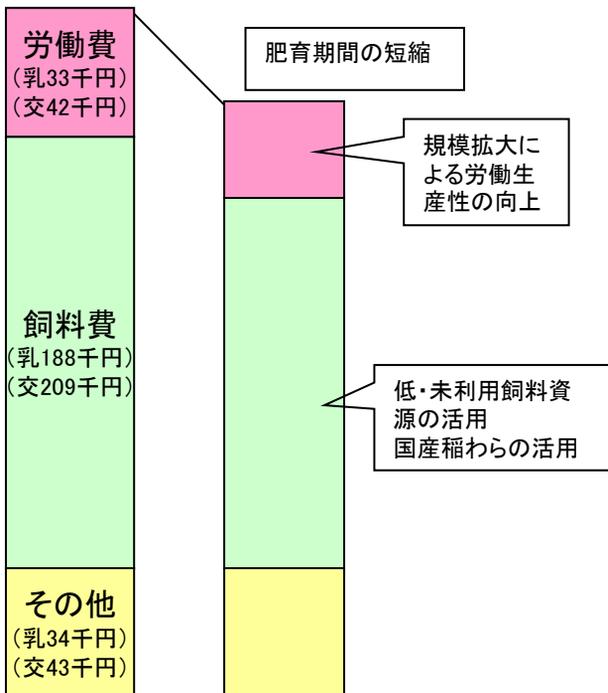
現状 (432千円/頭) → 27年度目標 (270千円/頭) (2割程度低減)

肉専用種肥育経営



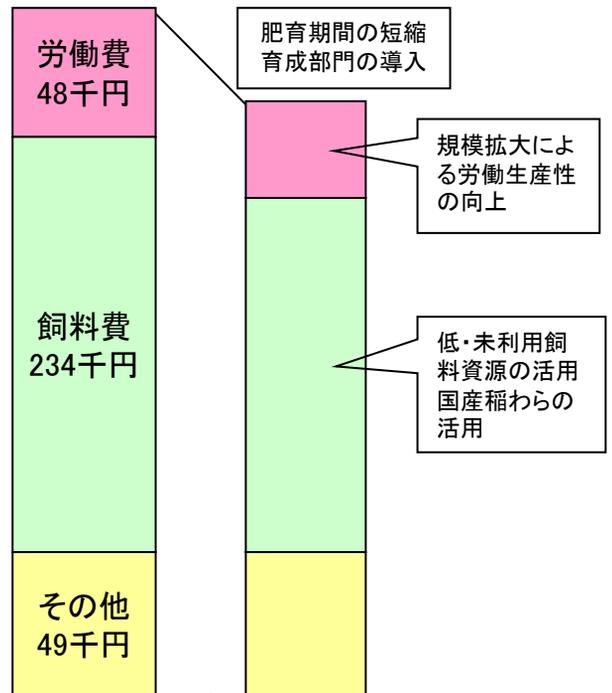
現状 (336千円/頭) → 27年度目標 (207千円/頭) (2割程度低減)

乳用種・交雑種肥育経営



現状 (乳用種255千円/頭) → 27年度目標 (165千円/頭) (2割程度低減)
(交雑種294千円/頭)

乳用種育成・肥育一貫経営

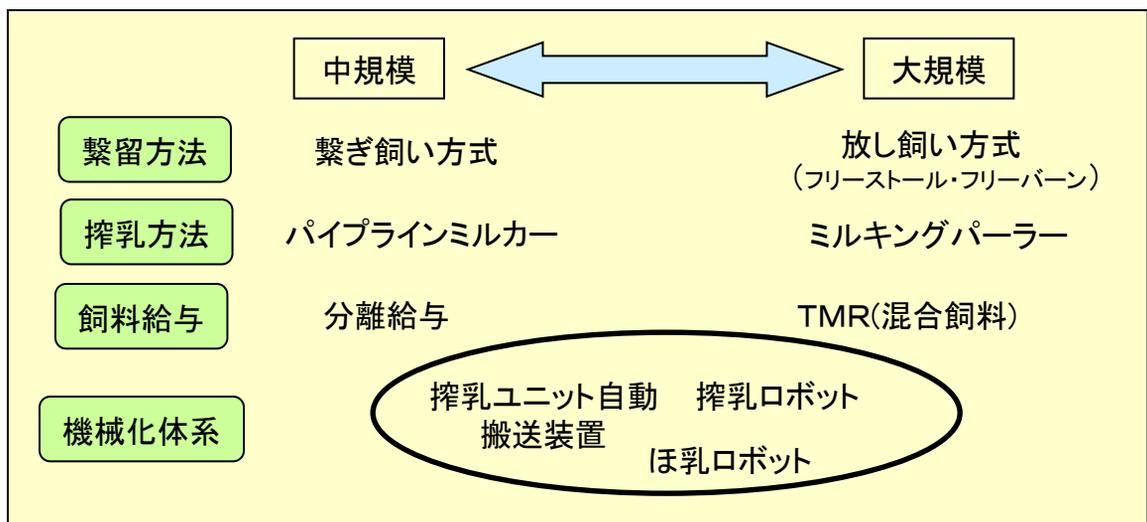


現状 (乳用種331千円/頭) → 27年度目標 (205千円/頭) (2割程度低減)

6 「牛・土・草・人」のバランスのとれた経営の実現

- 主たる従事者が、他産業並みの年間労働時間で、他産業従事者並みの所得を確保し得る経営モデルとして、10年程度後を目標に経営指標を設定しました。
- 経営指標は、経営者にとっては経営の将来像であることから、自給飼料基盤に立脚した循環型畜産を確立する観点から、地域別に多様な類型を設定しました。

様々な酪農経営に対応した飼養形態



肉用牛経営の安定と生産基盤の拡大

繁殖基盤の強化

- ・ 地域の中核となる大規模専門繁殖経営の育成

肥育経営の安定

- ・ 収益性の向上及び安定化
 - 規模拡大や法人化を通じた経営の合理化の推進
- ・ 肥育もと牛の合理的価格での安定的確保
 - 肥育経営自身による繁殖雌牛、ヌレ子の導入(一貫経営への移行)
- ・ 効率的な生産体系の確立
 - 適正な発育段階にある子牛導入や個体の能力に応じた適正時期での出荷による肥育期間の短縮等

大規模層ほど若手後継者が多い

品質と生産コストのバランスを充分検討

酪農経営の指標(北海道)

目標年度の平均規模

経産牛:80頭 乳量:8,600kg 更新産次:5産
飼養方式:繋ぎ・パイプライン・TMR
飼料作付:混播主体64ha 飼料自給率:70%
総労働時間:6,800時間 生産コスト:51円/kg
粗収入:5,250万円 所得:750万円

フリーストールで規模拡大

経産牛:120頭 乳量:8,200kg 更新産次:4.5産
飼養方式:フリーストール・パーラー・TMR・ほ乳ロボット
飼料作付:混播主体89ha 飼料自給率:70%
総労働時間:6,960時間 生産コスト:54円/kg
粗収入:7,550万円 所得:800万円

集約放牧の活用

経産牛:60頭 乳量:8,200kg 更新産次:5.5産
飼養方式:繋ぎ・パイプライン・分離給与
飼料作付:チモシー主体69ha 飼料自給率:75%
総労働時間:4,890時間 生産コスト:52円/kg
粗収入:3,750万円 所得:750万円

協業法人化(3戸共同)

経産牛:250頭 乳量:8,200kg 更新産次:4産
飼養方式:フリーストール・パーラー・TMR・ほ乳ロボット
飼料作付:混播・トウモロコシ171ha 飼料自給率:70%
総労働時間:11,780時間 生産コスト:52円/kg
粗収入:15,750万円 所得:900万円

酪農経営の指標(都府県)

目標年度の平均規模

経産牛:40頭 乳量:8,400kg 更新産次:4.5産
飼養方式:繋ぎ・パイプライン・分離給与
飼料作付:混播・トウモロコシ18ha 飼料自給率:45%
総労働時間:5,640時間 生産コスト:67円/kg
粗収入:3,100万円 所得:600万円

フリーバーンで規模拡大

経産牛:120頭 乳量:8,000kg 更新産次:4産
飼養方式:フリーバーン・パーラー・TMR
飼料作付:混播・トウモロコシ43ha 飼料自給率:40%
総労働時間:8,380時間 生産コスト:63円/kg
粗収入:8,850万円 所得1,050万円

繋ぎ牛舎で規模拡大

経産牛:80頭 乳量:8,200kg 更新産次:4産
飼養方式:繋ぎ・パイプライン・TMR・WCS
飼料作付:トウモロコシ・イタリアン27ha 飼料自給率:45%
総労働時間:6,300時間 生産コスト:64円/kg
粗収入:6,050万円 所得:900万円

協業法人化(3戸共同)

経産牛:200頭 乳量:8,000kg 更新産次:4産
飼養方式:フリーバーン・パーラー・TMR
飼料作付:トウモロコシ・イタリアン50ha 飼料自給率:35%
総労働時間:13,300時間 生産コスト:62円/kg
粗収入:14,800万円 所得:950万円

全指標共通事項:主たる従事者の年間労働時間は2千時間、所得は主たる従事者1人当たり、
飼料自給率は経営内自給率

肉用牛繁殖経営の指標(北海道)

複合経営

繁殖雌牛:50頭 分娩間隔:12.5カ月
初産月齢:24カ月 出荷月齢:8カ月
出荷時体重:240kg
飼養方式:牛房群飼・連動スタンション・分離給与
WCS利用
飼料作付:混播主体15ha 飼料自給率:70%
総労働時間:2,790時間 生産コスト:314千円/頭
粗収入:1,900万円 所得:600万円

専業経営

繁殖雌牛:100頭 分娩間隔:12.5カ月
初産月齢:23.5カ月 出荷月齢:8カ月
出荷時体重:240kg
飼養方式:牛房群飼・連動スタンション・分離給与
ほ乳ロボット
飼料作付:混播主体45ha 飼料自給率:60%
総労働時間:3,000時間 生産コスト:284千円/頭
粗収入:3,300万円 所得:950万円

肉用牛繁殖経営の指標(都府県)

複合経営

繁殖雌牛:30頭 分娩間隔:12.5カ月
初産月齢:24カ月 出荷月齢:8カ月
出荷時体重:240kg
飼養方式:牛房群飼・連動スタンション・分離給与
飼料作付:混播・トウモロコシ16ha 飼料自給率:70%
総労働時間:4,330時間 生産コスト:319千円/頭
粗収入:2,000万円 所得:600万円

専業経営

繁殖雌牛:80頭 分娩間隔:12.5カ月
初産月齢:24カ月 出荷月齢:8カ月
出荷時体重:240kg
飼養方式:牛房群飼・連動スタンション・分離給与
飼料作付:イタリアン・スーダン25ha 飼料自給率:60%
総労働時間:2,800時間 生産コスト:308千円/頭
粗収入:2,600万円 所得:600万円

協業法人化(3戸共同)

繁殖雌牛:200頭 分娩間隔:12.5カ月
初産月齢:23.5カ月 出荷月齢:8カ月
出荷時体重:240kg
飼養方式:牛房群飼・連動スタンション・分離給与
WCS利用・ほ乳ロボット
飼料作付:イタリアン・スーダン80ha 飼料自給率:60%
総労働時間:7,460時間 生産コスト:279千円/頭
粗収入:6,700万円 所得:650万円

全指標共通事項:主たる従事者の年間労働時間は2千時間、
所得は主たる従事者1人当たり、
飼料自給率は経営内自給率

複合経営の総労働時間及び所得には、肉用牛繁殖経営以外
の時間・所得を含む。

肉用牛肥育経営の指標(北海道)

乳用種・交雑種育成

乳用種:350頭 交雑種:150頭
育成期間:乳5.4カ月 交6.4カ月
出荷時体重:乳270kg 交250kg
飼養方式:牛房群飼・TMR(低・未利用飼料資源活用)
飼料作付:混播・麦稈32ha 飼料自給率:20%
総労働時間:6,080時間
生産コスト:乳57千円/頭 交54千円/頭
粗収入:11,200万円 所得:600万円

乳用種育成・肥育一貫

(一戸一法人)

育成:160頭 肥育:400頭
肥育開始:6カ月齢→出荷月齢:20カ月齢程度
出荷時体重:800kg以上 枝肉規格:B2~B3
飼養方式:牛房群飼・TMR(低・未利用飼料資源活用)
飼料作付:混播・麦稈20ha 飼料自給率:5%
総労働時間:4,570時間 生産コスト:266千円/頭
粗収入:10,800万円 所得:600万円

肉用牛肥育経営の指標(都府県)

肉専用種肥育

肥育:150頭
肥育開始:8カ月齢→出荷月齢:25カ月齢程度
出荷時体重:700kg以上 枝肉規格:A3~A4
飼養方式:牛房群飼・分離給与(低・未利用飼料資源活用)
飼料作付:トウモロコシ・イタリアン・稲わら3ha
飼料自給率:5%
総労働時間:3,390時間 生産コスト:252千円/頭
粗収入:7,350万円 所得:650万円

肉専用種繁殖・肥育一貫

(一戸一法人)

繁殖:50頭 分娩間隔:12.5カ月 肥育:100頭
肥育開始:8カ月齢→出荷月齢:25カ月齢程度
出荷時体重:700kg以上 枝肉規格:A3~A4
飼養方式:牛房群飼・運動スタジョン・分離給与・WCS利用(低・未利用飼料資源活用)
飼料作付:トウモロコシ・イタリアン・稲わら12ha 飼料自給率:20%
総労働時間:3,760時間 生産コスト:593千円/頭
粗収入:4,600万円 所得:600万円

乳用種・交雑種肥育

乳用種:150頭 交雑種:100頭
肥育開始:乳6カ月齢→出荷月齢:20カ月齢程度
交7カ月齢→出荷月齢:23カ月齢程度
出荷時体重:乳800kg以上 交760kg以上 枝肉規格:B2~B3
飼養方式:牛房群飼・TMR(低・未利用飼料資源活用)
飼料作付:混播・稲わら9ha 飼料自給率:5%
総労働時間:2,920時間 生産コスト:乳233千円/頭 交235千円/頭
粗収入:7,500万円 所得:850万円

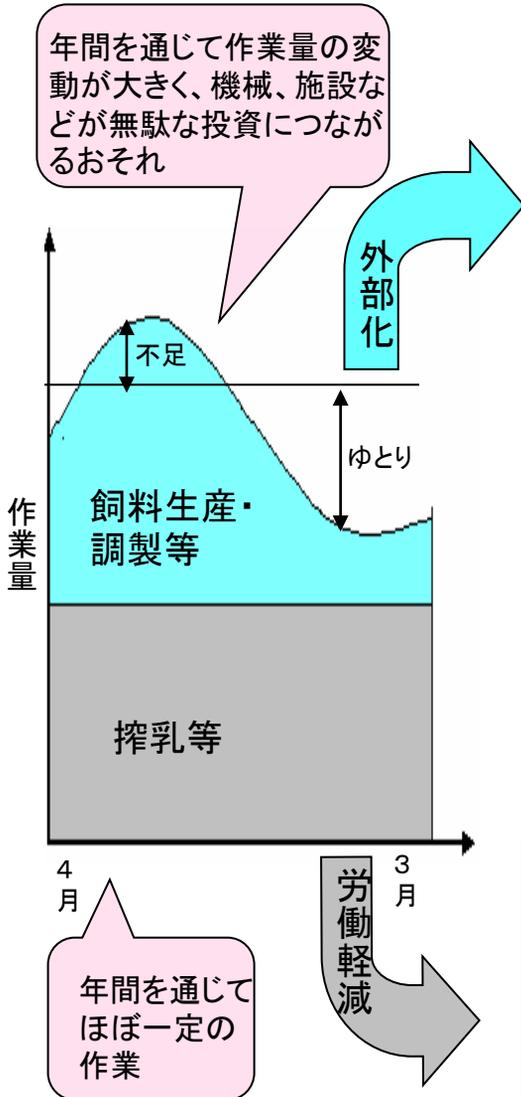
全指標共通事項:

主たる従事者の年間労働時間は2千時間、
所得は主たる従事者1人当たり、
飼料自給率は経営内自給率、
生産コストにはもと畜費が含まれていない。

7 コントラクターやヘルパーを利用しよう！

- 周年拘束性の強い畜産経営において、コントラクターやヘルパー等のサービス事業体を活用した作業の外部化や労働軽減は、経営体質を強化する有用な手段です。

酪農経営の例



飼料生産等

コントラクター、TMRセンター等に飼料生産・供給を委託し、労働負担、機械・設備投資を節減
 (コントラクター組織数→H15：317組織、受託面積→H15：90千ha)

ほ育・育成

ほ育センター、公共牧場等にほ育・育成牛を預託し、ほ育・育成作業を軽減

ふん尿処理

堆肥センターに堆肥生産、散布作業、耕種農家への供給を委託し、ふん尿処理作業軽減、還元農地の確保

* 上記作業の外部化とあわせて、地域において飼料の成分分析、草地の土壌分析、牛群検定情報の提供等を行う支援組織の育成、強化が必要

搾乳

搾乳ユニット自動搬送装置等の導入による搾乳作業負担の軽減、効率化

休日取得

酪農ヘルパーの利用によるゆとり創出
 酪農ヘルパー利用日数→H15：16.2日)